

(トップページ：<http://mylibrary.maedal.jp/>)

(ブログ「石油と中東」：https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー：0609

(注)本稿は2024年7月31日から8月2日まで3回にわたりブログ「中東と石油」に掲載したレポートをまとめたものです。

2024.8.5

前田 高行

ウクライナ紛争で激変したロシアと西欧のエネルギー貿易

(西欧はガス・石油をどこから調達し、ロシアはどこへ転売したのか?)

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻をきっかけに、EUは対ロシア制裁を強化し、同年12月には海上輸送による原油輸入を停止、2023年2月には石油製品の輸入も禁止した。その後、G7とEUは追加制裁としてロシア産原油の輸出価格を1バレル60ドルに設定した。さらにロシア産ガスの輸入抑制を目的として2027年までに全てのロシア産エネルギーを禁輸する計画をたてている。この結果、ロシア・ヨーロッパ間の石油・天然ガスの輸出入は激減した。

2022年は新型コロナ禍が終息し世界経済が再発展するタイミングであっただけに、ヨーロッパは石油・天然ガスの新たな輸入先確保に追われ、またロシアは戦費調達のため石油・天然ガスの歳入を増やさねばならず新たな販売ルートを求めている。経済制裁はヨーロッパとロシア双方に多大な影響を及ぼしたのである。

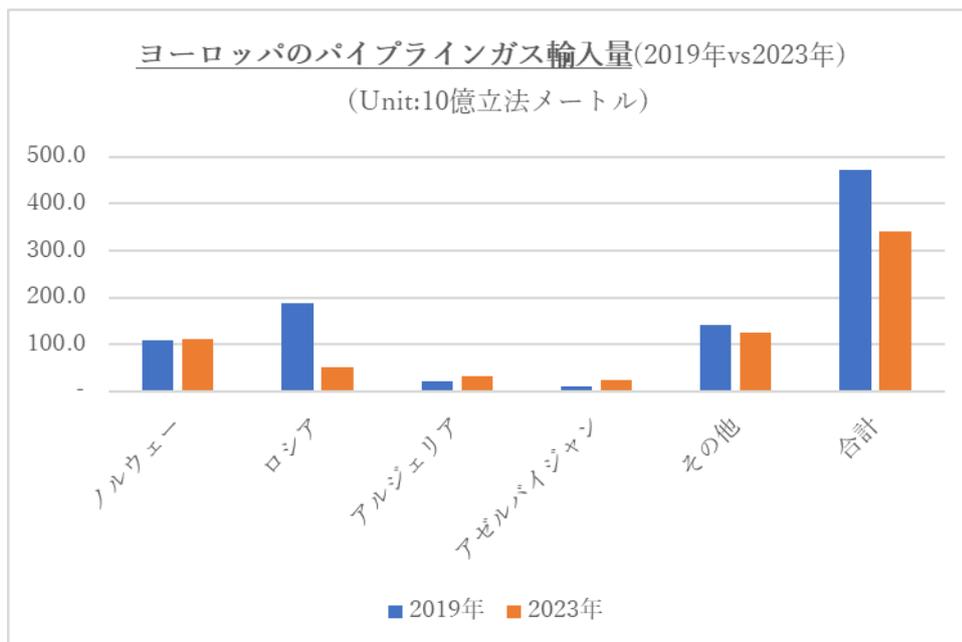
本稿ではEI(Energy Institute)が発表した世界エネルギー統計2024年版(Statistical Review of World Energy 2024)のデータをもとに、2019年(新型コロナ禍以前)と2023年(ウクライナ侵攻後)のロシアと西欧双方の天然ガスと石油の輸出入関係を比較し、どのような変化が生じているかを検証したものである。

*世界エネルギー統計2024年版については本ブログの解説シリーズ(全11回)を参照ください。

(ロシアからの輸入量が激減、不足分を穴埋めできず!)

1. パイプラインによるヨーロッパの天然ガス輸入量の変化

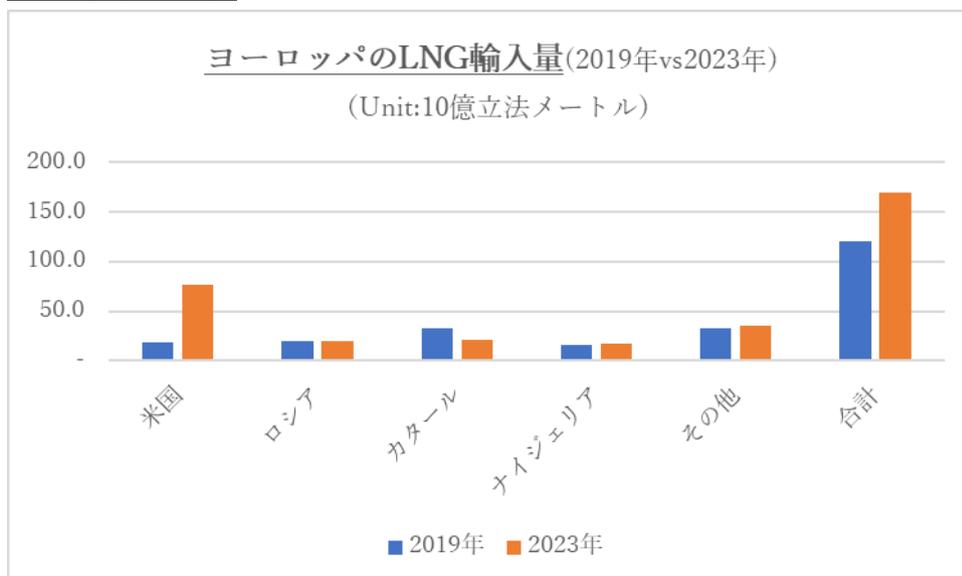
2019年にヨーロッパがロシアからパイプラインで輸入した天然ガスは1,880億 m^3 であった。同年の輸入総量は4,713億 m^3 であったため、ロシア産は40%を占めていたことになる。そして2023年の輸入総量は3,408億 m^3 であり、うちロシアからの輸入は498億 m^3 であった。



2019年に比較するとロシアからの輸入量は▲1,382億 m^3 、率にして▲74%減少したことになる。ロシアからの輸入を補填したのはアルジェリア(214億 m^3 , 2019年→306億 m^3 , 2023年)、アゼルバイジャン(同112億 m^3 →236億 m^3)などであり、地中海海底パイプライン或いはロシア領土を経由しない中央アジア旧CIS国家からのパイプラインによってヨーロッパの不足分が補充されたと考えられる。但し全体の輸入量も▲1,305億 m^3 (▲28%)減少していることから、パイプラインでの補充は不足分を穴埋めできなかつたようである。

(4倍に急増した米国産LNG輸入、全輸入量も増加しパイプラインの不足分を補填！)

2. LNG貿易の変化



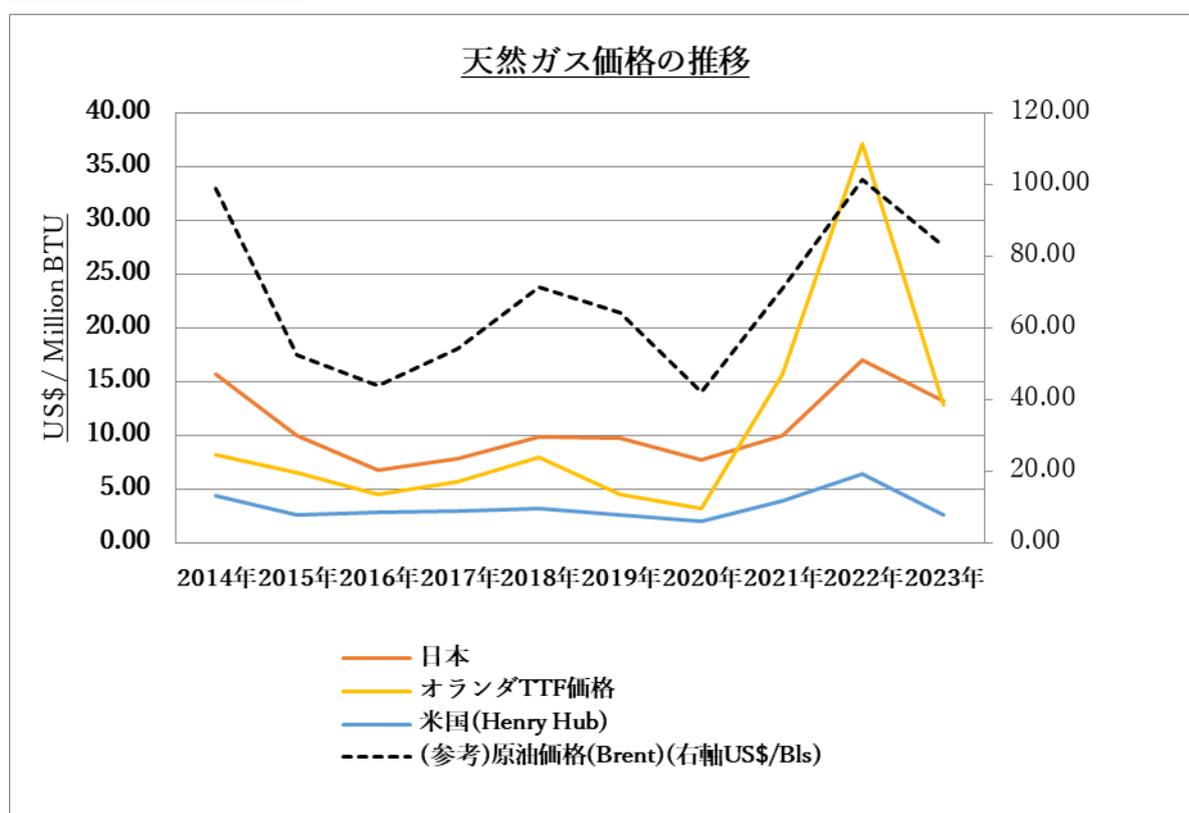
天然ガスのもう一つの貿易形態であるLNG(液化天然ガス)についてヨーロッパの輸入量と輸入相手国の変化を見ると、2019年のヨーロッパのLNG輸入量は1,198億 m^3 であった。これに対し2023年のLNG輸入量は1.4倍の1,691億 m^3 に達している。前項に述べた通りパイプラインによる生ガスの輸入量は4,713億 m^3 から3,408億 m^3 に減少しており、パイプラインによ

る不足を LNG で補っていることがわかる。この結果、総輸入量に対する LNG の比率は、2019年の 20%から 2023 年には 33%に拡大している。

次に輸入相手国の変化を見ると、2019年の LNG 輸入国トップはカタールの 322 億 m^3 であり、これに次ぐのがロシア 205 億 m^3 、米国 183 億 m^3 、ナイジェリア 158 億 m^3 、アルジェリア 152 億 m^3 であった。総輸入量に対する各国のシェアはカタール 27%、ロシア 17%、米国 15%、ナイジェリア 13%、アルジェリア 13%である。

しかし 2023 年には様相が一変し、トップの輸入国は米国となり、輸入量は 1,144 億 m^3 でシェアは 45%に達した。ヨーロッパが輸入する LNG のほぼ半分は米国産が占めていることになる。一方、2019年にトップで 27%を占めていたカタールの 2023 年のシェアは 12%に急落、3位であったロシアのシェアも 17%から 12%に落ちている。

3. 天然ガス価格の変動



ウクライナ紛争を契機とした天然ガス需給の激変は当然のことながら価格にも大きな影響を及ぼしている。天然ガスの価格指標として(1)日本価格(全量 LNG)、(2)オランダ TTF 価格(パイプラインを中心とし一部 LNG 組み合わせ)及び(3)米国 Henry Hub 価格(ほぼ全量パイプライン)の 3 種類がある。従来は日本価格が最も高く、これにオランダ TTF(ヨーロッパ)価格が続き、米国価格が 3 者の中で最安値であった。さらに日本とヨーロッパの価格は原油価格にスライドする部分が大いなのに対して、米国は豊富な資源量と縦横に張り巡らされたパイプライン網により独自の市場価格を形成している。

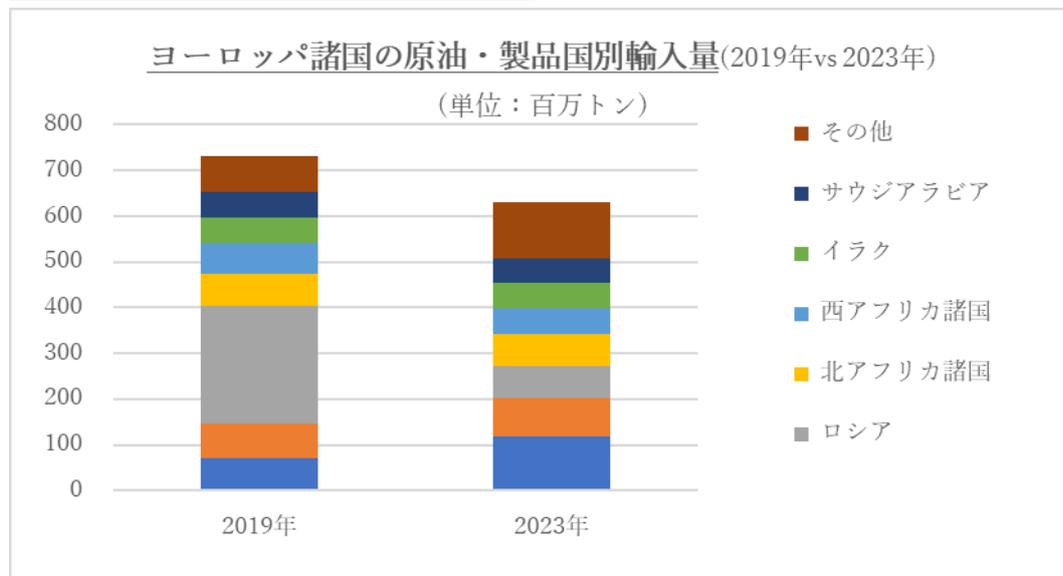
このような構図は 2020 年まで続き、同年の年間平均原油 (Brent) 価格が 42 ドルであったのに対して、天然ガス価格は 100 万 BTU 当たり日本価格が 7.65 ドル、オランダ TTF は 3.13 ドル、米国 Henry Hub 価格は 1.99 ドルであった。

しかし 21 年から 22 年にかけて原油価格が 70 ドルから 100 ドル超に急騰、これに伴い日本の LNG 価格は 9.93 ドルから 16.98 ドルに上昇、米国価格も連動して 3.84 ドルから 6.38 ドルにアップしている。ところがオランダ TTF 価格は日米をはるかに上回る急騰ぶり、2021 年には日本価格を上回る 15.67 ドルに急騰、さらに 2022 年には 2020 年の 10 倍を超える 37.09 ドルに暴騰した。2023 年には日本価格とほぼ同等水準に落ち着いているが、過去 3 カ年の価格変動は異常であった。ロシアからの天然ガス輸入停止によりヨーロッパ各国で天然ガス (特に LNG) の争奪戦が起きたことを示していると言えよう。

4. 原油・石油製品貿易の変化

(ロシアのシェアは 2019 年の 35% から 2023 年には 11% に激減！)

4-1 ヨーロッパの原油・製品国別輸入量

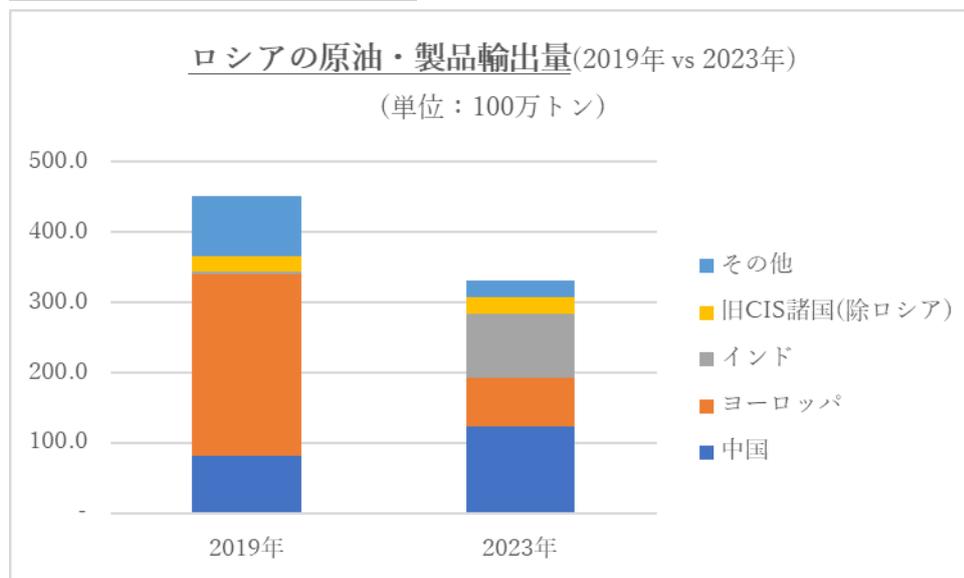


2019 年のヨーロッパの原油輸入量は 5 億 2,200 万トン、製品は 2 億 9 百万トン、合計で 7 億 3,200 万トンであった。合計量を国別で見ると最も多かったのはロシアの 2 億 5,900 万トンで全体の 35% を占めていた。ロシアに次いで輸入が多かったのはロシア以外の旧 CIS 諸国からが全体の 1 割強であり、米国、北アフリカ諸国、西アフリカ諸国、イラク、サウジアラビアなどが 9% 乃至 5% で並んでいた。

2023 年の原油・製品合計輸入量は 6 億 3,000 万トンと 2019 年に比べて 14% 減少している。これを国別に見ると 2019 年と大きく様相が変化している。同年の輸入国トップは米国の 1 億 1,700 万トンであり、輸入全体に占める割合は 19%、2019 年の 1.7 倍に増加している。米国に次ぐのは旧 CIS 諸国で、3 番目がロシアである。ロシアからの輸入量は 6,990 万トンであり、2019 年の 4 分の 1 弱に落ち込み、米国と対照的な結果である。また量は多くないものの UAE、クウェイト、中国、アフリカ諸国からの輸入が増加しており、供給源が多様化している。

(インド、中国向け輸出が激増！)

4-1 ロシアの原油・製品輸出量



ロシアの原油及び製品の輸出量について2019年と2023年を比較すると総量では2019年の4.5億トンに対して2023年は3.3億トンで▲26%減少している。中でもヨーロッパ向けは2.6億トンから7千万トンと4分の1近くに減少している。一方この減少を補ったのが中国及びインド向けである。中国向け輸出は2019年の8千万トンから50%増加、2023年の輸出量は1.2億トンに達している。インド向けの増加はさらに顕著であり、2019年の4百万トンから2023年には9千万トンと20倍以上増加している。

ヨーロッパ、中国、インド以外へのロシアの輸出も大幅に減少しており、このことからロシアは欧米の経済制裁によって閉ざされた世界の輸出ルートを中国とインドに振り替えたと言えよう。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp